

# 短歌で伝える「ありがとう」

松前 理沙子

「ランドセル 何度も背負い ぶり返る

一年生に なったつもりで」

わたしが小学校に入学する前に、わたしのお父さんが作った短歌です。小学校に入学するのが待ち遠しくて、何も入っていない新しいランドセルを、何回も何回も背負っては返って、ポーズを取っていたことを思い出します。

他にも、お父さんがわたしの小さいころから、たくさん短歌を作っていたことを知りました。

「窓を開け 五月の風に 吹かれてる

吾子の横顔 ちよつぱりおませ」

「そんなにも 早く大きく ならないで

つぶやいてみる 吾子の寝顔に」

わたしは、この短歌を聞いた時、はずかしいような、でもちよつぱりうれいような、不思議な気持ちがありました。こんな風にわたしも、短歌で人に自分の気持ちを、伝えられたらいいなあと思います。

そこで、わたしもお父さんと短歌を作ってみることにしました。

お父さんは、

「短歌を上手に作ろうとしなくていいんだよ。」

と、教えてくれました。

最初は、五文字と七文字の言葉をたくさん書いて、それをいろいろ組み合わせて作りました。

「夏休み ラジオ体操 通ったよ

ねむかったけど 楽しかったよ」

「阿波おどり おはやし聞くと おどり出す

さじきやぶ台で スポット浴びて」

わたしにも少しずつ短歌が作れるようになった気がしました。

そうしたらお父さんに、

「次はお母さんのことを、短歌にしてみました？」

と、言われました。

いくつか作った後なので、お母さんのことについての短歌なら、いくらでも作れそうな気がしました。

「阿波おどり ずつといっしょに 通ったね

真夏の暑い 暑い体育館」

「ありがとう 言うのは少し はずかしい

つかれたときは かたもみするね」

全然上手じゃないけれど、少しは、お母さんに対する気持ちが伝えられたかなと思います。

お母さんの短歌を考えている時、わたしは今までしてくれたことを、次から次へと思い出して、心から「ありがとう」と言いたくなりました。

お父さんもわたしの短歌を考えている時は、わたしのことを思い浮かべながら、作ってくれていると思うと、むねがいっぱいになりました。

これからも両親への感謝の気持ちをわすれないようにしたいです。また、お父さんといっしょに短歌を作ります。

ばいになりました。

お父さんもわたしの短歌を考えている時は、わたしのことを思い浮かべながら、作ってくれていると思うと、むねがいっぱいになりました。

これからも両親への感謝の気持ちをわすれないようにしたいです。また、お父さんといっしょに短歌を作ります。